

## 読 解 5

高橋 純子

### Reading Comprehension 5

TAKAHASHI Junko

週1コマ (10週)

登録者数、25人前後

主な内容：「五体不満足」乙武洋匡著を読む

その他、金子みすず、谷川俊太郎の詩を3～4つほど読む。

**授業の進め方：**「五体不満足」から毎回1つエピソード（単行本3～4ページ）を読む。それぞれのエピソードには単語表とそこで出て来る表現とそれを使った例文と内容理解のための質問の書いてあるプリントを配付する。

- (1) 授業で次に読むエピソードの背景知識について説明をする。  
例えば、サリドマイド、パンチパーマ、指をつめる、など辞書を見てもわかりそうもない社会背景、風俗、語彙などについての知識を与える。
- (2) 学習者は各自、家で新出の表現を使った例文を参考にしながら、辞書を引きながら翌週のエピソードを読んで、プリントの内容質問に答え、読解5クラスのメールアドレスに授業の24時間前までには提出しておく。
- (3) 教師は学習者の提出した内容理解質問のプリントを採点しておき、何が難しかったのか、学習者がほとんど理解している点と、皆が間違えて理解している点を把握しておく。
- (4) 授業で採点した内容理解質問のプリントを返却し、学習者同士で3～4人のグループを構成しそれぞれの採点結果を突き合わせて答え合わせをしていく。教師はこの間、学習者のグループを観察し、どんなことが話題になっているか聞き取る。グループから質問があればそれに答える。
- (5) グループ間を回っている間に学習者共通の問題があったらそれを全体でとりあげ説明、質疑応答する。
- (6) エピソードを読みながら（教師が、あるいは学習者が）細かい質問に答えて行く。
- (7) クラス全体で感想、意見、疑問点などを述べあう。
- (8) (1)の翌週のエピソードを読む準備をする。

以上が、基本的な進め方であったが、取り上げたエピソードの中で昔話「桃太郎」が出て来る。その際には日本の物語りの背景知識の1つとして「桃太郎」の絵本を映写し、その話を伝えることもした。さらに、著者は「五体不満足」出版後、何回かテレビ出演をしている。その初期のテレビ番組録画ビデオを見せ、どうやって食べるのか、どうやって飲むのか、どうやってバスケットボールをするのか、などエピソードで読んだ情報を確認した。

途中で前述の「桃太郎」やテレビ番組録画ビデオ視聴の時間をとると授業時間に空きができる。また、いつも同じものばかり読んでいてもマンネリ化が心配だ。そして学習者に読んでもらうと発音、プロミネンスなどはっきりしない者もいる。そこで金子みすず、谷川俊太郎の詩からリズム感のあるものを選びクラス全体で朗読してみた。また、それらの詩の型を使い学習者にパロディーを作る事を勧めてみた。3名ほどが挑戦してきた。全体の前で発表する機会が与えられ嬉しそうに読んでいた。

**評価方法：**毎回の課題提出率とその出来具合

持ち帰りテスト（1回）

最後の授業での自己評価票への記入（別紙参照）

**狙いと特徴：**

- (1) ある程度まとまった量の読み物を読み、読む力をつけるとともに量を読むことに慣れていく。

学習者は初級文法を終え、中級に入ったとは言え、教科書以外の読み物を自分で読んでいる者はまだほとんどいないレベルである。読む力をつけるためには「読む」ことだ。教材として選ばれる読み物はたいていが抜粋、丁度授業時間内に納まる長さのものになりがちだ。学習者の頭の中にも読解の授業は適当な長さのものを読んで、質問に答えて言葉を覚えて、という型があるようだ。ある時期に、それまでとは異なりまとまった分量を読むことが必要と考える。中級半ばの学習者に対して、全10回の授業で何ができるか、と言えはまず量を読み、読みごたえを実感することだろう。一度経験してしまえば、その後は量を読むことがそんなに苦痛ではないはずだ。読む物は「五体不満足」の中から、著者の成長を追っていきようにいくつかのエピソードを抜粋したので、続き物の面白さが味わえたはずである。そして、本授業の殆どの学習者にとってそれまでにない量を読むことになった。

これに関連して、もう1つ狙いがある。始めの2～3つのエピソードを読むのは確かに時間がかかるが、同じ語彙や、「五体不満足」の著者独特のよく使う表現が何度も出て来る。始めにしっかり読み込めば、4回5回と読み進んでいくうちにそれらに慣れてくるはずだ。そして、終わり近くになれば、読むのにかかる時間が遥かに短くなっているのに気がつくだ

ろう。これは学習者自身が自覚できるものであり、今後の学習の励みになるにちがいない。

(2) 書き言葉と話し言葉の違いを意識し、固い表現に慣れる。

「五体不満足」を教材に選んだのは、出版当時の話題性、著者が学習者とはほぼ同じ年代、などいくつか理由があるが、その文体の固さも理由の1つだ。日常的な出来事を面白おかしく語っているのだが、そこに使われる語彙、表現、語り口はかなり改まったもので固い。それがまた著者独特の味を出している。

その固い表現を習得するのに格好の教材になると判断した。些細な内容に固い大袈裟な表現を使うとどんな効果があるのか、など文体の違いを示す例が豊富である。

(3) 詩の朗読を通して、日本語のリズムを体得し楽しむ。

学習者も初級の時には、声を出して読む練習をしたはずだが、中級になったとたんそのような練習が少なくなるのではないだろうか。確かにこの段階になると、語彙も増え、黙読、多読、速読の技術を習得する読解授業も多いだろう。漢字圏の学習者などは漢字語彙は見ればわかってしまうものも数多く、その日本語の読み方を知らずに読み進んでいる学習者も多い。極端な例になると漢字語彙だけを頼りに読み進め、助詞や強調の表現、反語的言い回しを無視し違った理解をしていることもある。ひらがなが続いている場合も誤解が起こる。

例えば、「そんなはずありません」を「そんな図ありません」と読んでいたりして、クラスで質問されても一体何が問題になっているのかわからないことがある。量を読みこなしていきながら、音読も進めるのは大変だが、幸い「五体不満足」は歯切れよく読めるようになっている。時間が差し迫っている時は、教師の音読を聞かせ、授業がスムーズに進んでいる時は学習者にも指名して読ませるようにした。なかなか、上手に読めない学習者たちもいて時間がかかったが、家での音読学習も毎回進めた。そのきっかけが詩の朗読であった。

金子みすずと谷川俊太郎の詩からリズムのいいものをいくつか拾い、それをクラスで音読した。詩というものは本来朗読されるものであるので、学習者にも抵抗なく受け入れられた。気持ちのいいリズムであるため、学習者も音読そのものを楽しめた様子であった。その延長に本文の音読がある。

(4) 学習者同士が話し合いながら読みの理解を深めていく。

学習者は授業に出る前に「五体不満足」のその日に扱うエピソードを読んでおくことになっている。そして、各エピソード毎に語彙表と学習する表現とその例文、内容理解のための質問、発展質問の書いてあるプリントに答えを書いて提出し、教師の採点を受ける。授業時にそれを返却し、学習者同士の小グループで答えを確認しあう。

この学習者同士の話し合いが理解の大きな鍵を握っている。学習者は均一ではなく文法知

識も日本に関する文化的社会的背景知識も異なる。あるものは漢字語彙に強いが文型が乏しかったり、話す事は得意だが読むのが苦手もものごといたり、様々だ。そこで教師が一同を前に全部解説していると当然、ある学習者にとっては初めてのことが、他の学習者にとっては当たり前のことであつたりする。よく知っている事を教師が説明している間、おとなしくしていなければならないのも苦痛のようだ。それが、グループ学習では学習者同士がお互いに知っている事を教えあう。言葉の意味も学習者同士で上手に教えあっている。

教師が全体に向かって説明し、それが実はよく分からなかったと言って授業の後にもう一度質問に来る学習者がいる。わからないまま授業を後にした学習者もいるかもしれない。小グループでの学習ではその割合が少ないように観察された。分からないと学習者は本当にわかるまで譲らず、そうすると別の学習者が他の例で説明してやる、といった風景が観察された。このようにグループ学習をすすめると、前述、授業の進め方(5)のように教師は、グループ共通の問題点に的を絞って説明すればよく学習者の感想や意見を促す余裕ができてくる。

**問題点と今後の発展：**狙い(1)で述べた「ある程度まとまった量の読み物」とは言っても相対的なものでしかない。次の段階の学習者にとってはこの3～4ページのエピソードは細切れの教材になるかもしれない。学習者の今までの日本語学習歴を知る為の調査票に記入してもらった資料と学習者へのインタビューから判断したにすぎない。また量だけではなく質も考慮する必要があるのは自明だ。そしてどんなタイプの読み物なのかも考慮する必要がある。

小説などは、初めて読んだ時には理解できなかったものがある年齢に達して初めて理解できたとか、何らかの体験をした結果深く理解できた、などということもよくある。理解は言語能力の問題だけではないことも考慮すべきだろう。学習者の発想、連想の違いからくる誤読も多々あった。このような問題は狙い(4)の学習者同士の話し合いが機能する一番良い例であった。これについては後日、例をあげて発表したいと考えている。

さて、狙いの(2)文体の違いであるが、これは書き言葉で専門的な文章を書く時などに、初期の段階では教える。しかし、話し言葉でも固い表現は使われており、その使われ方で様々な情報を与えられる。どんな時でも固い表現を使う主人公がいればそれはその人の性格、年齢、地位などを示すことになる。この辺りのニュアンスを受け入れられる学習者とそれ以前にそういう表現があることを初めて知る学習者が混在していると授業は上滑りになってしまう。学習者の段階をよく見極めておくことが必要だ。

「五体不満足」の著者の出演するテレビ番組録画ビデオ教材を使用した。読んだものを映像で確認するというのはなかなか興味深いものがある。それまでに著者乙武洋匡をなんらかの媒体で見たことのある学習者は今回は皆無であった。読みながら想像していたのと見た

映像の重なり具合がそのままフィードバックになる映像もあった。また、読んで理解はしたつもりだったが、実際に見るのはやはり感動だと言う学習者もいた。読解とは活字の情報をそれぞれの頭の中で映像化していく過程とも言える。特に小説などはそうだ。留学生センターの授業編成では読解と作文、聴解と会話と分けられているが、教材によってはいろいろな組み合わせが可能なのではないかと考える。戯曲を丹念に読みその舞台化を鑑賞するというのも楽しい、いい学習になるのではないかと構想をねっている。

この「五体不満足」のいくつかのエピソードを読んでいく過程で学習者の理解を妨げたもの、学習者間の見解の分かれたもの、ほとんど全ての学習者が誤解したものなど興味深い発見があった。後日、詳細をまとめたいと考えている。

別紙1 学習者調査票

名前： \_\_\_\_\_ 国籍： \_\_\_\_\_  
筑波大学での身分：短期留学生 大学院生 研究生 研究員  
日研生 其他 ( \_\_\_\_\_ )

出席状況記入欄

宿題提出状況記入欄

今受講している日本語のクラス

文法 5 6 7 漢字 5 6 7 読解 3 4 5  
作文 3 4 5 読解作文 6 7

今までに留学生センターで受講した日本語クラス

文法 1 2 3 4 5 6 7

漢字 1 2 3 4 5 6 7

読解 1 2 3 4 5

作文 1 2 3 4 5

会話 1 2 3 4 5

聴解 1 2 3 4 5

読解作文 6 7

聴解会話 6 7

その他 ( \_\_\_\_\_ )

留学生センターでの日本語授業は初めての方は、留学生センターで日本語の勉強をする前にどこで、どのぐらい勉強をしましたか。できるだけ詳しく書いて下さい。

この授業でどんなことを学びたいですか。具体的に書いて下さい。

日本語をどんなところで、誰と話しますか。具体的に書いてください。

興味のあることは何ですか。

別紙2 本日の授業

【学習者用】

名前：

同じグループだった人の名前：

今日の授業での取り組みはどうでしたか。

積極的に発言した。

例えば：

他の学生や日本人学生から学んだ。

例えば：

あまり発言出来なかった。

どうして：

次回に知りたいこと、発言したいことは？

今日覚えた言葉、表現は何でしたか。覚えているだけでいいです。

書いてみてください。

今日の教材はどうでしたか。

教材はやや優しすぎた（ ）

教材はちょうど良かった（ ）

教材はやや難しかったが、興味深かった（ ）

教材はやや難しかったが、協力しあって理解できた（ ）

難しすぎた（ ）

【日本人学生用】

名前：

同じグループだった人の名前：

今日の学生の様子はどうでしたか。

教材はやや優しすぎた様子だ ( )

教材はちょうど良かったようだ ( )

教材はやや難しかったが、興味深かった様子だ ( )

教材はやや難しかったが、協力しあって理解できた様子だ ( )

難しすぎた ( )

本日の授業で学生からの質問はどんなことでしたか。

どんなことを学生は新たに学びましたか (教えましたか)

その他気がついたことを書いて下さい。



別紙3 自己評価票

名前：

読解5の授業での自己評価をしてください。

1. 毎回課題を提出した。(はい 半分 半分以上 毎回)
2. グループでの話し合いに積極的に参加し、いろいろな質問をし、自分の意見を述べ、提案をした。

例えば：

よって、私の成績は(A B C D)と評価します。

尚、出席率が60%未満の場合は自動的にFになります。

.....

以下は成績とは関係がありません。今後の授業の参考にしますのでご協力ください。

(1) 「五体不満足」の読み物は

- 面白かった     あまり面白くなかった     つまらなかった  
 難しかった     丁度よかった     簡単すぎた

(2) 金子みすずの詩は

- 面白かった     あまり面白くなかった     つまらなかった  
 難しかった     丁度よかった     簡単すぎた

(3) 谷川俊太郎の詩は

- 面白かった     あまり面白くなかった     つまらなかった  
 難しかった     丁度よかった     簡単すぎた

(4) その他、授業に関してなんでも感想を書いて下さい。